

TOSHIBA

表彰状

1~32列部門

優秀賞

医療法人 慈風会 白石病院 殿

貴病院が「画論 The Best Image 2015」
に応募されました CT画像はその臨床的
意義と撮影技術が優秀と認められました
優れた臨床応用技術を最大限活用され
新分野を切り開くご努力に深い敬意を
表しここに榮誉を讃え表彰いたします

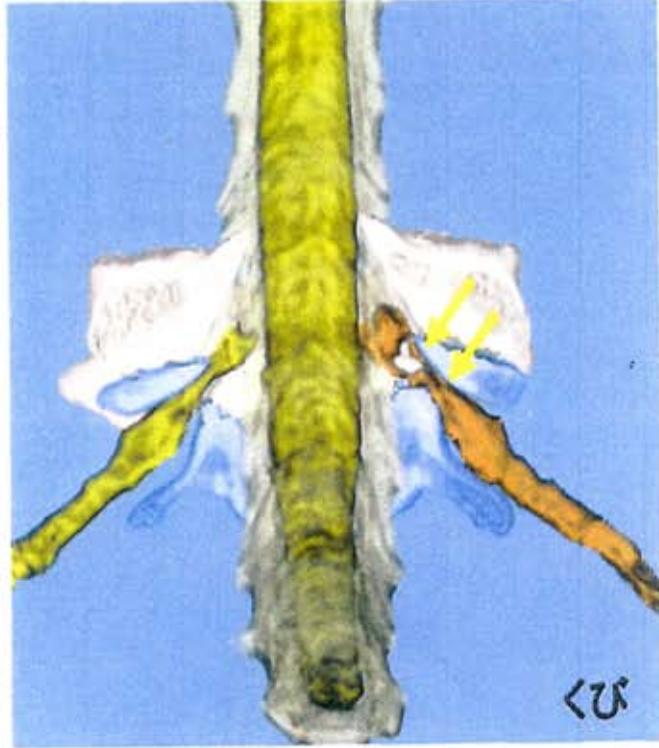
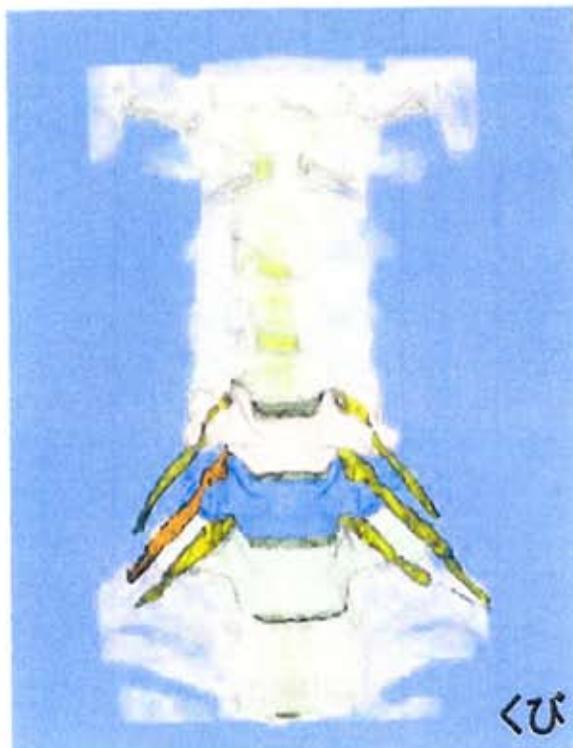
平成 27 年 12 月 13 日

東芝メディカルシステムズ株式会社

代表取締役社長 瀧口 登志夫

2015年12月13日
東京国際フォーラムで開催された
『画論 The Best Image 2015』に参加。
ディスカッションを行い、527演題中、上位57演題に
選出され、『優秀賞』を受賞しました。

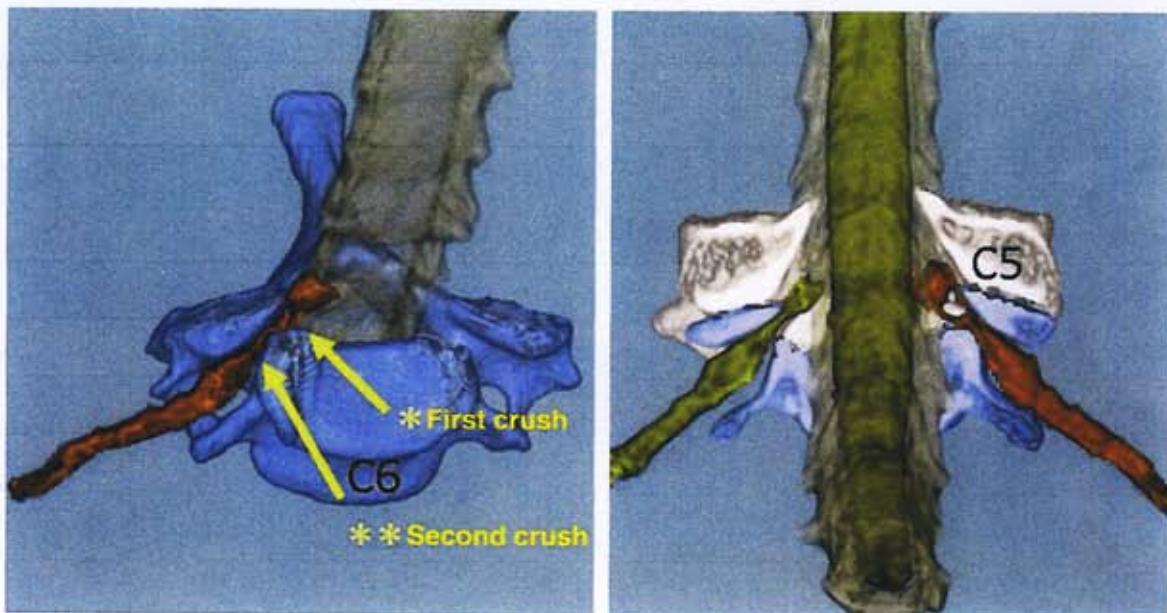
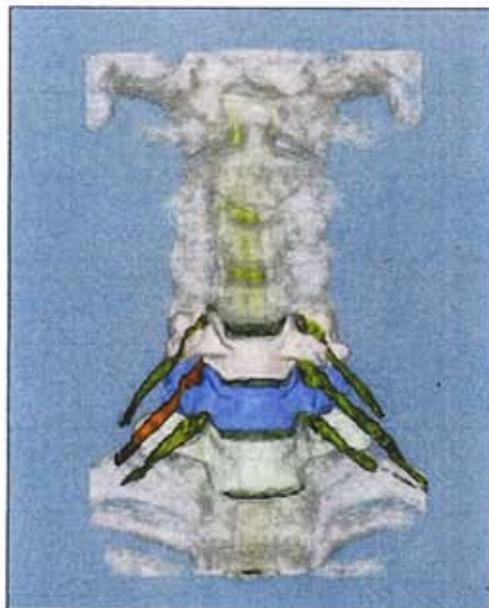
・頸椎症性筋萎縮症(CSA)『3-D CT/MRI fusion image評価』



CTとMRIの画像を重ね合わせることで、神経の圧迫原因、
圧迫場所が分かります。

当院独自の画像です。





四肢·脊椎

頸椎症性筋萎縮症(CSA)

医療法人 慈風会 白石病院

卷之四

使用装置・列数：Asteion Super4 4列

検査目的：3カ月前より軽度右肩痛あり。経過とともに右上腕部が萎縮し筋力が低下した。右上肢全体の脱力感を自覚したため当院受診。頸椎MRI、CT撮影後、頸部神経根精査目的のため、3D CT/MRI fusion imageを作成した。

クリニカルコメント: MRIデータのみの3D化で、右C6神経根の2カ所で圧迫を認めた。これに3D化した

椎体(CT画像)を重ね合わせることで、圧迫原因がC5椎体の終板とC6椎体Root grooveの骨棘と特定できた。頸椎疾患は神経根と同じ椎体のRoot grooveで障害が起こることが多いが、この患者は一つ上の椎体も関与している珍しい症例である。神経根が原因で生じる筋萎縮症の評価として有用である。

テクニカルコメント: 3D CT/MRI fusion image作成のため、CT撮影、MRI撮影は同姿位で行った。3D CT/MRI fusion imageを作成することで、診断の難しい脊柱管外側病変を一目瞭然に描出することができた。MRIデータのみの3D化では圧迫原因を特定できないが、CTデータで3D化した椎体を重ね合わせることで圧迫原因を特定できた。

画像コメント : a : 3D CT/MRI fusion image(頸部)。CTデータ、MRIデータをワークステーション(VINCENT)上

で重ね合わせをし、3D化した画像。当院では骨変形が強く評価の難しい症例や、手術前の評価、術中ナビゲーションなどで活用している。 b : 3D CT/MRI fusion image. 1つずつ椎体を消して任意の方向から評価できる。Second crushはC6椎体Root grooveの骨棘による圧迫と確認できた。 c : C5椎体を加えさらに評価した。First crush, Second crushの様子。

審査員コメント: 4列装置で、3DCTとMRIのfusion用い、神経根の圧迫の原因が骨構造であることを特定している点を評価した。